

ホワイズファーム（北海道南幌町）

組織の概要

- 町内の担い手の数は減少する中、1 経営体当たりの経営面積は拡大傾向（町平均約33.2ha）。
- 適期作業の実現には、
 - ① 農業機械の大型化を進めることで生産性を高めつつ、
 - ② 投資コストを抑えるため機械の共同利用を行い、構成農家の作業体系を統一することによる作業効率の向上と経営所得の安定を図ることを目的に、R3年に設立。農家2戸で構成。



生産概要

- 作付面積：水稻47ha、小麦35ha、小豆11ha 計93ha（R2年）
- 緑肥や有機資材の施用により地力増進に取り組み、**適切な輪作体系を維持**している。
- 地域における農地の受け手として、R3年から経営面積を10.3ha拡大。借り受けた農地において水稻から小麦への作付転換を行い、小麦の作付面積の拡大を進めている。

取組のポイント

<団地化に向けた話し合い>

- 南幌町農業協同組合の地図システムを活用し、関係機関との協議の上、団地化を推進し作業効率の向上を図る。

<先進技術の導入、生育後期重点施肥の推進>

- 新たに小麦を生産するほ場ではこれまで水稻を作付けしていたほ場が多く、排水性を高める必要があるため、カットブレーカーを導入し、心土破碎を行う。
- 栽培履歴を基に行う施肥設計や、莖数、葉色値等の測定結果に基づいた生育後期重点施肥を実施することにより、単収を向上させる。



取組成果

<小麦単収の高位安定化>

■ 転作田を団地化し、小麦の作付面積が34%増加

- ・作付面積：35ha（R2） → **47ha（R3）**
→ 51ha（R6目標値）

■ 排水対策等の実施による高水準の単収確保

- ・団地化率：65%（R2） → **81%（R3）**
→ 83%（R6目標値）
- ・単収：643kg/10a（R2） → **638kg/10a（R3）**
→ 617kg/10a（R6目標値）

小麦の単収・団地化率の推移

